

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3270700507		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム はまぼうふう		
所在地	島根県浜田市久代町1-7 (電話) 0855-28-3371		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月14日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤1人, 常勤換算14.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1, 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	150 円
	または1日当た		850 円	

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	70歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター・岡本歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目を迎えるデイサービスを隣接したグループホームである。管理者は職員が生きがいを持って楽しく働けるグループホームとなる事が、利用者へのより良い支援につながると考え、職員間のコミュニケーションを大切にしている。職員は笑顔と優しさを持って日々のケアに取り組んでいる。運営推進会議の協力により地域とのつながりが広がり、地域行事への参加や避難協力要請など交流も活発に行なわれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」「評価の意義の理解と活用」「災害対策」は積極的に取り組み改善されている。「同業者との交流」や「重度化、終末期に向けた方針の共有」は引き続いて検討課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	計画的に時間をかけ、ユニットリーダーを中心に職員全員で作成した。問題点、改善課題についても意見を出し合いながら取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に一回開催されており、避難訓練の見学、ホームの諸行事や外部評価報告、法改正などが報告されている。参加メンバーから情報や意見をもらったり、地域との橋渡しをしてもらうなど、会議の成果が現れてきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時、家族会、アンケート、運営推進会議などできるだけ多くの機会を作り、意見や要望、苦情を聞くようにし、それらを全職員で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りにおいて神楽を見に行ったり、草刈りなど地域の行事に参加したり、ボランティアの情報を集め受け入れに積極的に取り組んでいる。また自治会総会に出席しグループホームの紹介や災害時の避難協力要請をしたり、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、地域に密着した独自の理念を掲げて日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭に置きながら年目標を作り、日々利用者のために何が出来るのかを考えながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りでの神楽や、草刈りなど地域行事への参加、ボランティアの受け入れなど交流に努めている。4月には自治会総会に出席しホームの紹介や災害時の協力要請をした。積極的に地域への広報活動に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットリーダーを中心に全職員で作上げた。外部評価は改善計画シートを利用しながら改善できる部分から全職員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月一回開催し、ホームの取り組み状況などの報告をしている。参加者から要望や情報を聞き、意見交換を行いながらサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域密着型部会に参加し情報を交換して、平素から連携を図り共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員、統括リーダー、管理者が写真付きの手紙を送り利用者の様子を伝え金銭報告もしている。また二ヶ月に一回「はまぼうふ便り」を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、家族会、運営推進会議、訪問時などに苦情・要望・意見を聞いている。出された意見は職員全員で話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動もあるが利用者に配慮している。今年度は1ユニットだけではなく2ユニットの利用者と馴染みの関係を作り、ダメージを防ぐ支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画を立て段階に応じた研修などなるべく全職員が参加出来るように機会を設けている。隣接するデイサービスとの月1回の勉強会も4月からスタートしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会、法人内関連施設の同業者との会議を実施している。今年度より職員も数人参加している。	○	計画されている他の事業所との職員交流や相互訪問などを通してサービスの質の向上に取り組まれることに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学や、自宅や施設を訪問し馴染みの関係作りをしている。入居直後しばらくの間家族と相談しながら一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に生活をするなかで、先輩としての経験、体験を教えてもらうことが多い。利用者からいたわりや感謝の言葉を言われたり元気をもらったり支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や動作の中から感じ取るように努めている。困難な場合、寄り添ったり、時間をおいたり家族から情報を得たりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や要望を取り入れ、介護計画作成担当者と担当者、職員が話し合って作成している。	○	介護計画作成にあたり利用者、家族が話し合いに参加し立案できる体制づくりに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直しは6ヶ月に1回である。毎月1回モニタリングの実施で確認検討している。変化があれば随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援はもとより、ショートステイも可能であり、デイサービスについても現在準備中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医による受診体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、かかりつけ医、家族、職員間で対応について共有できているが、終末期ケア対応については今後の課題となっている。	○	終末期対応についても、利用者や家族の意向を大切にしながらホームとして最大限できることを踏まえ引き続き取り組んでいただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員がさりげなく声をかけて、歯磨きや手洗い、トイレの誘導をしている。日々の関わりの中でおかしな点があれば、管理者から、また職員間で相互に注意しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買物など、一人ひとりの体調や思いに配慮しながら希望に応じた生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の盛り付けや配膳をしたり後片付けをしている。職員とともにテーブルを囲んで和やかに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっているが毎日入浴を楽しめる。嫌いな方には、声かけのタイミングなど工夫しながら支援している。	○	利用者の生活習慣や希望に沿った入浴支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、趣味や経験を引き出し生きがいや楽しみを大切に、日々の生活の中で活かす場面を作り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、日向ぼっこなど、本人の希望に沿った外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみである。日中は利用者の様子を見守りながら、自由な生活が出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、自治会長など運営推進会議メンバーも一緒になって避難訓練を実施した。地域への協力要請もしており、備蓄も準備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量について、全職員が情報を共有し、把握している。法人の栄養士から定期的に専門的アドバイスをもらっている。		
し					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間や廊下には利用者に合わせたくつろぎコーナーがあり、ゆったりとした音楽が流れ季節の花が飾られている。利用者は思い思いの場所で作業をしたり話をしたりして過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの生活スタイルに合わせて、使い慣れた好みのもので持ち込まれ、家族の写真や自分の作品を飾ったりして、居心地のよい居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。